

芦別高校生徒3人が報告

マレーシアの体験紹介

海外短期留学派遣事業「挑戦すること大切」

【芦別】海外短期留学派遣事業で、今年1月にマレーシアに短期留学をした芦別高校の生徒3人が24日、同校

で報告会を行った。市と同窓会も支援している事業で、同日は北村真市長、同窓会の中島隆司会長、小川政憲副

会長ほかPTA会長、保護者らも出席して報告を見守った。

留学したのは2年生の水上葵さん、1年生の佐藤聡太さん、原悠翔さんの3人。引率教諭と1月6日から12日間、マレーシアのクアラルンプールに滞在。現地のELCで語学研修プログラムを体験や専用車でマチを巡り、伝統料理や寺院、歴史などに触れた。

同校では、2015年から語学研修を目的にオーストラリアへの派遣を開始。コロナ禍で3年間中断したが、昨年からは派遣先を多民族国家のマレーシアに

変更した。

報告会には、1年生23人と2年生49人も参加し、3人が動画や写真をスクリーンに映しながら実況。佐藤さんは動画でヒンズー教の聖地などを紹介した。原さんは「野良犬やハトの多さにビックリした」と話し、動物園のマレータイガーなどを紹介。水上さんは、マレーシアと日本の物価の違いなどを紹介しながら、「新しい環境に挑戦することの大切さを学びました」と報告した。

【船木宗司】

今回私が学んだことは、環境が変わると、自分の考え方や価値観も変わるということです。
What I learned from this experience is that I learned that when the environment changes, my way of thinking and values also change.
英語を学ぶ楽しさや難しさを実感し、物価の違いからお金の価値についても考えさせられました。
I realized both the fun and difficulty of learning English, and the differences in living costs made me think about the value of money.
この経験を通して、新しい環境に挑戦する大切さを学びました。
Through this experience, I learned the importance of challenging myself in new environments.